

避難所における感染症対策で提言

上越市議会は18日、村山市長に「避難所における新型コロナウイルス感染症対策に関する提言書」を提出しました。

提言では、「今後、第2波、第3波の感染拡大も懸念される」「災害時の住民避難が新型コロナウイルスの感染拡大につながらないよう最大限の配慮が必要」として、次のような対策を求めています。

1 避難所の開設と密集状態の緩和
避難者を一か所に集中させないよう可能な限り多くの避難所を開設し、早急に住民に周知すること。また、住民避難に際しては、状況に応じて自宅にとどまる、親戚、友人宅への避難を呼びかけるなど、避難所における密集状態の緩和を図ること。

2 高齢者など要配慮者の避難先の確保
感染による重症化のリスクが高いとされる高齢者、災害弱者といわれる障害者、乳幼児などの要配慮者には、県と連携して旅館、ホテルなどの避難先を用意し、分散避難を呼びかけること。なお、福祉避難対象者(重度の障害等ある方は所定の福祉避難所へ避難させること)。

3 感染防止に配慮した避難所運営に努めること
避難者の手指の消毒、避難所の換気、清掃を徹底するとともに、避難者間のスペースを十分に確保すること。必要に応じて段ボールベッドや段ボール間仕切りを設置すること。さらに、体調不良者は別室を用意し、出入り区域を分けること。

4 市民への周知
新型コロナウイルスの感染を恐れるあまり、市民が避難を躊躇することはあってはならない。迅速かつ的確に命を守る行動がとれるよう、避難方法や避難時の留意事項などについて、あらゆる広報媒体を使って周知すること。

5 避難所対応職員のスキルアップ
避難所の運営が適切に行われるよう職員研修や町内会役員、防災士との協議を行うなど、避難所対応職員のスキルアップを図ること。

今回の提言書提出にあたっては、災害対策特別委員会委員長の橋本洋一議員、副委員長の私も同席しました。



【イチヤクソウ】ツジツ科の多年草。漢字で「一葉草」と書きます。おそらく10数年ぶりです、この花と出合ったのは。前回は山間部で、今回は平場の林の中で見つけました。花期は6月～7月。葉は根ぎわに集まり、長い柄の先に白い花を咲かせます。花言葉は「恥じらい」。写真は21日、吉川区代石にて撮りました。



加齢性難聴者の補聴器購入助成求める請願不採択

6月議会最終日の18日、追加議案に関する委員会審査報告(右のイラストは厚生常任委員長報告)、請願に関する委員長の審査報告、討論などが行われました。

このうち、加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的助成制度創設を求める意見書提出にかかる請願、および後期高齢者の医療費窓口負担の現状維持を求める意見書提出にかかる請願では、平良木議員が賛成討論しました。

同議員は補聴器購入助成に関しては、「難聴の改善に力を発揮するのが補聴器だが、日本ではあまり普及していない。その理由は主に2つ。補聴器の購入価格が高いこと、そして高度・重度の聴覚障害の方しか公的支援の対象となっていないことにある」「高齢になっても生活の質を落とさず、心身ともに健やかに過ごすことができれば、認知症の予防、健康寿命の延伸、ひいては医療費の抑制にもつながる」とのべて賛成しました。

後期高齢者の医療費窓口負担の現状維持を求める請願では、「今年1月の全世代型社会保障検討会議医療保険部会の席上でも、委員から、『2割負担に伴う受診抑制により、結果として重症化につながると、逆に医療費、介護の費用を増幅させることにつながる』」「86万円の平均所得の人たちに2割負担というのは、かなりの人たちが医療から遠ざけられる」との意見が出されているほか、日本医師会や全国後期高齢者医療広域連合協議会からも負担増についての検討の中止を求める意見が相次いで出されている。後期高齢者の暮らしと健康、命を守るために、医療費の窓口負担を増やさないでほしいという思いは、多くの国民の共通の思いだ」とのべて賛成しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1965 2020.6.28
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い 第六一二回 黄色いサボテンの花

何でもそうですが、思ってもみなかった良い展開となると心を揺さぶられます。Yさんの場合、サボテンの花がそうだったようです。

六月の下旬、Yさん宅へ行くと、「橋爪さん、ちょっと見ていってください」と誘われました。Yさん宅の屋敷の前庭から少し歩いたところへ行って、「うわっ」と声をあげそうになりました。杉の木の根っこ

のところでサボテンの黄色い花がいっぱい咲いていたからです。花の数を数えると、少なくとも七〇個は咲いていました。

花には日の当たり具合などで早く咲くものもあれば、遅いものもあります。これから咲く蕾も数十個ありましたから、しばらく人の目を楽しませてくれそうです。

サボテンはウチワサボテン、サボテンの代表選手と聞いていいでしょう。一個だけで見ると、縦一形、横一〇形ほどの大きさです。咲いている黄色の花は直径五形もありました。敵から身を守るためでしょうか、たくさんのトゲもあります。古いサボテンほどトゲは硬く、じがっしています。

ウチワサボテンは横に増えるだけではありません。体の上部から芽が出て、上の方にも増殖していきます。ですから下の方にあるものは古く、上の方にあるものは新しいサボテンといえます。

した。

このサボテンの花、最初はピンクのものがいくつか咲いたそうです。それがいつの間にか黄色い花にかわり、いまは完全に黄色の花となりました。スイカズラのように白から黄色に変化する花もありますが、この花は同じ花の色が変化するのではなく、年度をまたいでの話ですから、なぜこういうことになるのか調べてみたいものです。

この日は、このサボテンを見る三〇分ほど前に、別の家でアジサイの花の不思議な咲き方について教えてもらっていました。その家の脇には、アジサイの木がありました。毎年、青色の花を咲かせます。そのアジサイから一歩ほど離れた場所に挿し木をしたところ、赤っぽい紫色の花が咲いたということでした。土質、日当たりなども花の色に影響を与えるのでしょうか。

Yさん宅のサボテンについては、最初に見た日の次の日にもおじゃまし、二度も見せてもらいました。もう一度ウチワサボテンを見て、細かいところも丁寧に観察したいと思ったのです。

二回目の訪問の時も青空が広がり、気温は二五度を超えて、夏日となりました。前日咲いていた花はいくつもしぼみ、花の数は減っていました。花が醸し出す全体の雰囲気はそのままでした。

カメラを向けると、ハチが一匹やってきて、花の中心部に顔を突っ込み、蜜を吸い始めました。雌しべの柱頭の一番上から脇、さらにその下へと顔を押しつけ、蜜を盛んに吸っています。そして次から次へと飛び回るなかで、体中、花粉だらけになっていました。ハチも必死です。

私が再度、サボテンを見に出かけた日、Yさん夫婦の娘さんの家では祝いの事があったとのことでした。黄色い花は幸せをもたらすと言われています。今年にはウチワサボテンの花に願いを託しましょう。

櫻井大士流木作品展、素敵でした



三和区川浦のギャラリー 葵楽庵で開催されていた櫻井大士流木作品展に行ってきました。

芸術家さんは何でもできるんですね。最初に「これは、いい」と思ったのは櫻井さんの海岸の写真でした。海岸に打ち上げられた流木は作者の想像力によって、じつに面白い作品に生まれかわります。飾り物にも玩具にもなります。

流木ではありませんでしたが、短靴(たんぐつ)も打ち上げられたものなのではないでしょうか。これを活かした作品にも惹きつけられました。

一番びっくりしたのは、ギャラリーを運営している飯野ケイさんのことです。吉川区国田出身の方だったとは……。

今年になって撮影したチョウはキアゲハ、ルリタテハ、そして写真のメスグロヒョウモンの3種だけです。

このメスグロヒョウモンはピンクの花を咲かせた畑で見つけました。花の蜜を吸っている時がシャッターチャンスでした。大島区板山で撮影。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月17日(水)	6月24日(水)
上越南消防署	0.047	0.047
上越北消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.040	0.047
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.050	0.060
東頸消防署	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.050
高士分遣所	0.053	0.053